

医師紹介 矢原 由佳子



こんにちは。非常勤医師としてお世話になっています矢原由佳子です。母校の三重大学では石賀院長と同じ部活に所属し学生時代を過ごした御縁もあり、週に1度、私の住む松阪から、四日市周辺の患者様のお宅にお邪魔するようになって3年が経ちました。卒後は内科や外科、小児科を研修後、画像診断専門医（CTやMRIの機器で撮影したお体の画像を見て診断し、主治医に報告する医師）として勤めています。普段は画像とにらめっここの総合病院を飛び出し、毎週月曜日は皆様のお宅にお邪魔して、時には御家族も（ペット達も！）交え、談笑しながら診療させて頂くひと時がとても楽しいです。医療者の仕事は患者様の心身の苦痛を限りなく取り除く努力すること、と心得てますが、毎回の訪問では、皆様との触れ合いを通じて私のほうが教わることばかりです。至らない点もあるかと存じますが、いしが在宅ケアクリニックならではの強力なチームワークに支えられながら精進して参りますので、今後とも宜しくお願い申し上げます。ちなみに私の趣味は歌うことです。今はジャズを中心に歌っていて、演歌も大好きです。皆様と音楽のお話もさせて頂けたら嬉しいです。御在所岳も雪化粧を始めました折り、皆様、暖かくなさって、お過ごし下さい。

★★ チーム ZAITAKU 新メンバー紹介 ★★



総務部
いちかわ ともき
市川 友樹



看護師
はつとり なおこ
服部 直子

◆出身地…広島県広島市
◆家族…妻、息子夫婦、孫2人
◆趣味…去年から野菜作りに励んでいます。
◆意気込み…
最年長ですが動けるまで頑張るつもりです。
◆当院の印象…
院長、医師、看護師、事務、皆さん若く連携よく明るく仕事をされているので、クリニックの一員として慣れるまで大変ですが頑張ります。

◆出身地…山口県防府市
◆家族…夫、3歳、1歳の息子
◆好きなこと…
アウトドア、ハイキング、買い物
◆至福の時…
美味しいものを食べているとき。今は搾乳中で控えていますが、1杯目のビール！
◆当院の印象…
院長、スタッフの皆さんの雰囲気がやわらかく仲が良い。向上心を持って前向きに取り組んでいる明るいクリニック。

看護師だより



Kさんはがんの手術を受けられましたが2年後に再発されました。その後も腸の通過障害と抗がん剤の副作用のため、たびたび嘔吐し点滴のための入院生活を余儀なくされておられました。初めてKさんにお会いした時に次のようなお話をさせていただきました。

「Kさんはこれまで様々な検査や治療などを頑張ってこられました。今日から療養の場をご自宅へと移されました。私たちがまず大切にしていることは、がんという病気を患ったからといって日常生活を制限せず、これまで通りの生活を楽しむということです。食事についても食べたい物を好きな時間に食べてください。おいしく食べることが病気の勢いを抑える力につながります。点滴はいつでも可能ですが、つながれる、むくみやすくなる、食欲が低下するなど悪い面もあります。お口から少しでも食べられるのであれば点滴に頼らないようにしましょう。そして抗がん剤は決して治す治療ではなく、病気とうまく付き合っていくための手段の一つに過ぎません。」

Kさんの場合は抗がん剤や点滴を中止されると体調が良くなり、なんでも食べられるようになりました。そして日々を奥様と笑って暮らすことが治療になると気付かれ、愛犬の「しょうた」と「ごんだ」と一緒に温泉旅行などで楽しめています。がんであろうとどんな病気であろうと、楽しく前向きに毎日を生きることによってうまく病気と付き合える。そのことを本当に仲の良いKさん夫妻をみて改めて思いました。そして自然に腫瘍マーカーもどんどん減少しました。がんセンターの先生は「治療をしていないのにどんどん良くなる。」と首をかしげているそうですが（笑）。これからも病気と共に存されている皆様が、笑って楽しく生活できるよう、私たちも人生のドラマに参加させていただき少しでもお役に立てればと思います。

第1回 三重在宅ケア研究会



去る11月14日（木）四日市市のあさけプラザホールにおきまして、「第一回 三重在宅ケア研究会」が開催されました。この会の目的は病院や多職種と連携し「積極的に高齢者の生活の場に行くこと」そして「看取りに至るまでその人らしい生活を継続できるよう支援すること」です。今回の内容は3部に分かれており、第1部は学術情報「がん患者さんの痛み治療について」。第2部はパネルディスカッション「在宅困難例をどう支えるか」。第3部は講演「三重県における在宅医療の現状と課題～500名あまりの在宅看取りの経験から～」でした。参加者は165名で大盛況の中終了いたしました。参加者の皆様、アンケートにご協力いただいた皆様、ありがとうございました。